

何でも読もう会

書物名	『白い人』 遠藤周作	開催 日時	2023.2.6	推薦	
巻・章	全編			出席者	7名
<p>芥川賞受賞作を読み比べている。本作品はS30/上半期の受賞。</p> <p>この作者の作品は『深い河』について当会では2作目である。作者は早くにカトリック教会で受洗、生涯キリスト教と関わり続けた。キリスト教を盲信するのではなく、東洋の精神風土とキリスト教とのかかわりにこだわり続けた人だといえる。</p> <p>この作品はキリスト教作家として初期のものであるが、戦時体制下仏・リヨンの残酷な状況に宗教はどれほど対応できるのかを問い続けている。そのためサタン役を主人公として登場させ、敬虔な男女二人にこれでもかと精神的肉体的に攻め苛む話である。</p> <p>討論の中で、こんなしんどい話ばかり書いては身がもたない、「狐狸庵」先生の軽いノリが必要だろうと、同情しきりだった。</p> <p>サタン役の若者は厳格なキリスト信者の母親の影響が強く、どんどん精神的におかしくなるのだが、最後まで母親に拘り続けるところが話題になった。特に母親と息子という構図で議論が沸いた。</p>					